

Global studies第8号： 表紙,執筆要領,執筆者一覧,奥付

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所 公開日: 2024-03-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000179

GLOBAL STUDIES

グローバルスタディーズ

8

2024

研究論文

- 1 明治末期における清国人留学生の夏休みの過ごし方 —黄尊三『留学日記』を中心に— — 樂 殿武
- 19 A Comparison of Two Methods of Teaching EFL Reading: Outcomes for Textbook with Out-of-Class Reading & Reaction Papers vs. Online Reading Library with Required Word Count Quizzes and Comments on Books Read — Anne C. Ihata
- 27 Confucius on the Road: the Mechanism of and the Interplay between the Confucius Institute and the Belt & Road Initiative — Albert R. Zhou
- 41 音声によるビジネス日本語教育用タスク教材の開発 —議事録作成能力の養成を目指して— — 向山 陽子
- 55 Examining the Dynamics of Value Perception in the Realm of Luxury Brand Goods — Connie Chang
- 73 Assessing the Appeal of Working in Japan for Highly Skilled Self-Initiated Expatriates from Asia — Roderick Bugador
- 85 The Imagined Globe
Japan's Postcolonial Mentality in Nissin Cup Noodles — Takayuki Yamamoto
- 103 Event Study on the Announcement Effect of ESG Bond Issuance: Evidence from Japan — Chenchen Su
- 117 観光地における顧客との良好な関係性構築の重要性に関する研究 — 岩崎 比奈子
- 127 中国語母語話者のダ体使用実態と介入活動による使用の変化 — 陳 信宏

研究ノート

- 149 Linking Media Communication Efficiencies to Stock Valuation — Woo Li Ko

161 博士論文紹介

世界の幸せをカタチにする。

Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所

1. 投稿資格

- ・グローバルスタディーズ研究所の研究者および客員研究者
- ・大学院言語文化研究科、グローバル学部の科目担当の専任教員および非常勤講師
- ・大学院言語文化研究科の大学院生および修了生
- ・以下のいずれかに該当する者は、グローバルスタディーズ紀要編集委員会で認められた場合に限り投稿することができる。
 - (1) 本研究センター所属の専任教員との共同研究に従事する者
 - (2) 紀要編集委員会が特別に依頼した者
- ・原稿は未発表に限る。同時に他の雑誌等に投稿する等、二重投稿に該当するような行為はしない。
- ・1人1編とする。共同研究の場合は1人2編まで、筆頭者としては1編のみ投稿可とする。

2. 研究倫理等について

- ・投稿する原稿が人を対象とする研究（実践報告等で学生が書いた資料を使用する場合も含む）の場合、**事前にグローバルスタディーズ研究所の研究倫理審査委員会 (gs_ethic@musashino-u.ac.jp) に申請し、承認を得る**。申請方法は[こちら](#)。原稿には、研究倫理上必要な手続きを行い、承認された研究であることを記載する。

3. 使用言語

日本語、英語、中国語のいずれかとする。

4. カテゴリー

いずれも、グローバルスタディーズおよび関連領域に関する研究・報告であること。

- ・**研究論文 (Research article)**
先行研究に加えるべきオリジナリティのある成果が明確な根拠に基づいて述べられているもの。
- ・**展望論文 (Review article)**
対象となる研究分野の研究状況・主要成果・問題点等の概観と、それに基づいた研究の意義、今後の課題や展望が述べられているもの。
- ・**実践報告 (Practice report)**
教育現場における実践の内容を、明確な根拠に基づいて具体的かつ明示的に述べられているもの。
- ・**調査報告 (Survey report)**
調査や資料分析の報告が、データに基づいて述べられているもの。
- ・**研究ノート (Research Note)**
萌芽的課題の提起など、研究の基礎または中間報告として、将来的に優れた研究につながる内容が明確に述べられているもの。

5. 原稿作成上の注意

- (1) 原稿の様式と分量
 - ・編集委員会指定の Word のテンプレートを使用する（行間やフォントなどを自分で変えない）。
本文は、MS 明朝/Times New Romans,10.5pt
各章の見出しは、MS ゴシック 12pt（章の見出しのみ行間を段落 1.5 行とする）

節・項の見出しはMS ゴシック 11pt

- ・日本語・中国語原稿の場合は、20000 字以内、英語原稿の場合は、8000 語以内とする
(注、参考文献、図表を含む)。

(2) 表記法 (日本語)

- ①日本語は常用漢字、現代仮名遣いを原則とする。
- ②数字は原則として半角アラビア数字とする。ただし、「一切」「四半世紀」などの熟語、成句、固有名詞に限って漢数字を使用する。
- ③句読点は「、」「。」を使用する。
- ④句読点、「」、() は全角で使用する。

(3) 論文タイトル

日本語原稿には日本語のメインタイトル (MS 明朝 18pt、サブタイトルは 14pt) の下に英語タイトル (Times New Romans ・ 14pt) を入れる。英語原稿・中国語原稿にはそれぞれの言語のメインタイトル (Times New Romans ・ 18pt、サブタイトルは 14pt) の下に日本語タイトル (MS 明朝 14pt) を入れる。

(4) 氏名 (MS 明朝 Times New Romans 12pt)

漢字の氏名は文字と文字の間に半角スペースを入れる。

(5) キーワード (MS 明朝 Times New Roman ・ 10.5pt)

キーワードは 5 語以内とし、論文タイトル、氏名の下に記載する。

(6) 文中の引用

- ・単著文献を引用する際には、加藤 (2007) あるいは、加藤 (2007, 2009) のようにする。筆署名と出版年をかっこに入れるときは、(加藤, 2009) とする。
- ・複数の文献を引用する際には、(加藤, 2007; 宇佐美他, 2019; Erlam, 2005) のように名前の上に半角コロン+半角スペース、半角セミコロン+半角スペースとする。
- ・引用元のページは、加藤 (2007: 19) のように、半角コロン+半角スペース、掲載ページを入れる。
- ・同一筆者による同じ年に出版された文献は、「加藤 (2009a)」「加藤 (2009b)」のように、年のあとに a, b …を入れて区別する。
- ・共著は、2 名までは記載し、3 名以上の場合、初出から筆頭著者名のみとし、第 2 著者以降は「他」「et al.」を用いる。

例 2 名まで： 船山・筒井 (2020) Sacks & Schegloff (1979)

3 名以上： 杉江他 (2001) Sacks et. al (1974)

(7) 図表や画像

- ・B5 判で製本されることを考慮し、縮小率に注意すること。
- ・図表・画像は、原稿ファイルとは別に、解像度の大きなものを提出する。
- ・引用する場合は、出典を必ず明記する。ネット等から画像を利用する際には、著作権等に問題がないことを確認すること。

(8) 謝辞・注 (MS 明朝 Times New Roman ・ 9.5pt)

注は本文中に上付添字で 1) 2) 3) … と通し番号で示し、原稿末尾の参考文献の前にまとめる。ワードの脚注機能は使用しない。

(9) 参考文献 (MS 明朝 Times New Roman ・ 9.5pt)

参考文献は謝辞・注の下にまとめる。以下の書式で統一する。

①英文書籍

Ellis, R. (2003) *Task-based Language Learning and Teaching*. Oxford University Press.

②英文論文

Langacker, R. W. (2006) On the continuous debate about discreteness. *Cognitive Linguistics*, 17, 107-151.

Sacks, H, Schegloff, E. A. & Jefferson, G. (1974) A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation. *Language*, 50, 696–735.

③和文書籍

加藤周一（2007）『日本文化における時間と空間』岩波書店

④和文論文

石井敏（2001）「現代社会と異文化コミュニケーション」石井敏・久米昭元・遠山淳（編著）『異文化コミュニケーションの理論 新しいパラダイムを求めて』有斐閣ブックス, 1-7.

宇佐美洋・森篤嗣・広瀬和佳子・吉田さち（2009）「書き手の語彙選択が読み手の理解に与える影響—文脈の中での意味推測を妨げる要因とは—」『日本語教育』140, 48-58.

⑤翻訳書

Lave, J. & Wenger, E. (1991) *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*. 佐伯胖（訳）（1993）

『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』産業図書

→本文中引用の場合 Lave & Wenger（1991, 佐伯訳 1993）

（Lave & Wenger, 1991 佐伯訳 1993）

⑥ウェブの資料

文部科学省（2019）大学等におけるインターンシップの実施状況について.

https://www.mext.go.jp/b_menu/internship/1387151.htm（2020年1月1日）

(10) 所属 (MS 明朝 Times New Roman・10.5pt) 右寄せ

学部・学科・職位等を原稿末尾に記載する。

6. 原稿提出期日とスケジュール

年1回、委員会の定める期日までに提出する。スケジュールは以下の通り。

・7月末日 投稿エントリー締切

エントリー用 Google フォーム <https://forms.gle/riZf6JEyqR49cjuw6>

・9月末日 原稿締切

・1月初め 入稿

・2月半ば 校了

・3月初め 納品



7. 原稿提出方法および提出先

・原稿は、武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所紀要編集委員会 (gs_edit@musashino-u.ac.jp)

宛に、電子データをメールにて提出する。

・図表は、原稿とは別に、解像度の大きなものを別途提出すること。

8. 提出原稿の校正

著者校正は2回までとする。校正段階での原稿の大幅な訂正、加筆、削除は控える。

9. 抜刷り

抜刷りは一論文に対して30部とする。共著の場合は、30部を執筆者で分配する。不要の場合は、エントリーシートに希望しない旨記載する。

以上

執筆者一覧 (掲載順)

【研究論文】

樂 殿 武	Hirotake Ran	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科 教授
アンクリステーン 脇畑	Anne C. Ihata	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科 教授
アルバート チョウ	Albert R. Zhou	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科 教授
向 山 陽 子	Yoko Mukoyama	言語文化研究科 教授
張 巧 韻	Connie Chang	グローバル学部グローバルビジネス学科 准教授
ロデリック ブガドル	Roderick Bugador	グローバル学部グローバルビジネス学科 准教授
山 本 貴 之	Takayuki Yamamoto	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科 専任講師
蘇 晨 琛	Chenchen Su	グローバル学部グローバルビジネス学科 准教授
岩 崎 比奈子	Hinako Iwasaki	グローバル学部日本語コミュニケーション学科 専任講師
陳 信 宏	Nobuhiro Chen	言語文化研究科言語文化専攻修士課程 修了生

【研究ノート】

コ ウ リ	Woo Li Ko	グローバル学部グローバルビジネス学科 助教
-------	-----------	-----------------------

【博士論文紹介】

鄭 穎	Zheng Ying	言語文化研究科言語文化専攻博士後期課程 修了生
張 銀 曉	Zhang Yinxiao	言語文化研究科言語文化専攻博士後期課程 修了生

Global Studies 第8号

2024年3月1日発行

編 集 武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所紀要編集委員会

発 行 武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所
〒135-8181 東京都江東区有明3-3-3
電話 03-5530-7312

印 刷 株式会社ワコー
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-7
電話 03-3230-2511

GLOBAL STUDIES

グローバルスタディーズ

8

2024

RESEARCH ARTICLES

- 1 Summer Activities of Chinese Students in the Late Meiji Era:
A Study Based on Huang Zunsan's "Study Abroad Diary"——Hirotake Ran
- 19 EFL リーディングを教える 2 つの方法の比較——アン クリスティーン 膽畑
- 27 「一帯一路」構想における孔子学院の役割に関する一考察——アルバート チョウ
- 41 Development of Audio Task-Based Language Teaching Materials of Japanese
in Business Settings: To Foster Learners' Ability to Record Minutes——Yoko Mukoyama
- 55 高級ブランド品の顧客価値認識の研究——張 巧韻
- 73 アジアからの自発的高度人材にとって日本で働く魅力——ロデリック ブガドール
- 85 想像の世界 日清カップヌードルにおける日本のポストコロナルメンタリティ——山本 貴之
- 103 ESG 債券発行のアナウンスメント効果に関するイベントスタディー日本市場を対象に——蘇 晨琛
- 117 Research on the Importance of Building Good Relationships with Customers
at Tourist Attractions——Hinako Iwasaki
- 127 The Usage of the Plain Style by Native Chinese Speaking Learners of Japanese
and the Changes in Usage After Intervention Activities——Nobuhiro Chen

RESEARCH NOTES

- 149 メディアコミュニケーション効率性と企業価値評価の関係——コ ウリ

161 DOCTORAL THESIS

世界の幸せをカタチにする。

Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University's Institute for Global Studies